

① 学習指導案

プログラム	No. 10「校歌の風景を見つけてみよう」 No. 11「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全 時間)	「地域の人々の工夫や努力と、未来の曾根沼」～未来の曾根沼プランを考えよう～ 全70時間
学習のねらい	・地域のよさ、素晴らしさに気付き、自分の言葉で語れるようにする。 ・地域の活性化や地域貢献についての意識をもてるようにする。
学習内容	1 校歌の風景を調べ、新聞にまとめて伝える。 2 曾根沼の過去・現在を調べる。 3 曾根沼未来プランを考える。 4 曾根沼未来プランのCMを作って、下級生や保護者に伝える。
参考資料 準備品 実施場所等	地域資料 ゲストティーチャーの話 カメラ タブレット端末 Teamsに使うスクリーン等 曾根沼干拓地 等

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
24時間	<p>「校歌の風景を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌1番の田園風景、2番の琵琶湖、3番の稲村山（麓に曾根沼）を訪れ、地域に関心をもつ。 ・校歌の風景の写真、調べたこと、感じたこと等をグループで新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌の提示 ・校歌の風景の写真提示 ・現地を訪ねるとともに資料やインターネットをもとに情報収集させる。 ・情報整理や新聞の作成の仕方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用の方法や手順を理解して用いている。 ・目的や、相手を意識して考えをまとめている。 ・地域の景観のよさに気付き、関心を高めている。
28時間	<p>「曾根沼の過去・現在を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾根沼が干拓されるまでの生活（曾根沼での漁業）を調べる。 ・曾根沼干拓の様子や、干拓後の農業について調べる。 ・干拓地での彦根梨栽培の歴史と現在の様子を調べる。 ・彦根梨園以外の曾根沼干拓地の活用を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を設定させる。 ・地域の人への聞き取りの仕方を指導する。 ・ゲストティーチャーを迎えて話を聞く場を設定する。 <p>干拓前の漁業、干拓の様子や道具 干拓後の農業 現代の土地活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々のくらしの工夫や努力を理解している。 ・得た情報から自分たちの疑問や新たな情報を得るための課題を設定している。 ・地域の人々の願いを知り地域の未来に向けた自分の考え、思いをもとうとしている。
18時間	<p>「曾根沼未来プランを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと稲村がよりよくなるように、曾根沼干拓地の未来の活用を考える。 どのような活用ができるか、そのためにすること、したいことを考える。 ・「曾根沼未来プラン」のCMを作り、下級生や保護者に伝える。（学習参観） 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の伝統工芸の学習や地域防災の学習も想起させる。 ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の仕方を指導する。 ・学習参観の発表が学習のまとめになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の活用の方法や手順を理解している。 ・目的意識をもち自分の考えや思いをまとめたり、表したりしている。 ・地域社会の一員として、地域の将来について考えている。

<留意点>


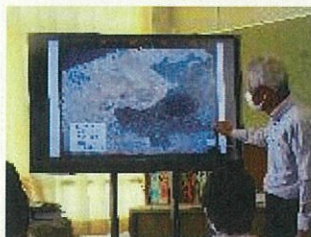

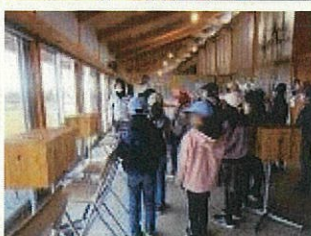



- ・校歌に出てくる風景から関心を高め、先人の努力や工夫を知り、未来の地域の姿を自分事としてとらえられるようにする。




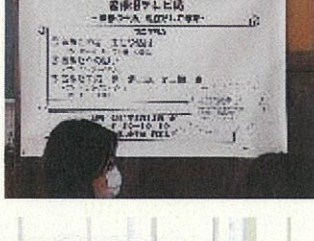


- ・次年度学習する3年生や、保護者に向けて自分の考え・思いを発表するという目的意識、相手意識をもたせる。
- ・国語科や社会科等、他教科の学びも生かした単元構想をする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 彦根市立稻枝北小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
24時間	学校 現地	<p>「校歌の風景を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌1番の田園風景、2番の琵琶湖、3番の稲村山（麓に曾根沼）を訪れ、地域に関心をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・校歌の風景の写真、調べたこと、感じたこと等をグループで新聞にまとめる。 ・互いに新聞を読み合い、よさを認め合う。 	     	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌の中にはどんな風景が「あるのだろう」。 ・現地で確かめてみよう。 ・2年生の時の町探検を思い出そう。 ・稲村山からの景色はきれいだった。 ・曾根沼干拓は広いな。 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科で学習した新聞の作り方を活用して、見出しや記事を考えよう。 ・どの写真を使うとよいか考えよう。 ・曾根沼は現在の姿と昔の姿はだいぶ違うらしい。どのように違うのだろうか。なぜ干拓されたのだろうか。

23時間	学校 現地	<p>「曾根沼の過去・現在を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾根沼が干拓されるまでの生活（曾根沼での漁業）を調べる。 ・曾根沼干拓の様子や、干拓後の農業について調べる。 ・干拓地での彦根梨栽培の歴史と現在の様子を調べる。 ・彦根梨園以外の曾根沼干拓地の活用（ビール工場、ハンググライダー場、ソーラーパネル）を調べる。 	    	<ul style="list-style-type: none"> ・曾根沼を見に行こう。 ・干拓地は広いな。 ・なぜ、干拓されずに残っている曾根沼があるのだろうか。 ・地域の人のお話で、干拓までの話し合い、曾根沼一部が残されたままになった理由、曾根沼干拓地の農業についてわかった。 ・干拓事業の道具を調べよう。 ・米作りから彦根梨栽培に変わっていった理由や、地域の人工夫を調べよう。 ・曾根沼干拓地にビール工場やハンググライダー場、ソーラーパネルができた理由を調べよう。 ・曾根沼干拓地を生かしたいという地域の人願いがあったんだ。
	滋賀県防災センター	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の防災について学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災について調べよう。3学期の「未来プラン」の学習に生かしたい。
	水荃焼陶芸の里	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の特産品水荃焼を体験する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品づくりについて学ぼう。3学期の「未来プラン」で「いなむら」の特産品も考えたい。

<p>18時間</p>	<p>学校</p>	<p>「曾根沼未来プランを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと稲村がよりよくなるように、曾根沼干拓地の未来の活用を考える。 <p>どのような活用ができるか、そのためにすること、したいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「曾根沼未来プラン」のCMを作り、下級生や保護者に伝える。(学習参観) 	     	<ul style="list-style-type: none"> ・いなむらのお米や梨、野菜のおいしさを伝えよう。名産品として発信しよう。 ・もっとどんな作物があるとよいか考えよう。 ・ハングライダー場のお客さんが増えるとよい。 ・CMを作って伝えよう。 ・曾根沼干拓の様子や、現在、そして未来を伝えよう。「3年生に」「家の人に」 ・劇にして表そう。 <ol style="list-style-type: none"> ①昔の生活 ②曾根沼干拓への思い ③曾根沼干拓工事 ・劇の間に未来に向けてのCMを作って流そう。
-------------	-----------	--	--	--

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">・国語科、社会科の学習と関連付け、その学びを生かして興味関心を高めたり、まとめ方を工夫したりできるようにした。・何度も現地を訪れ、興味をもったことや疑問点について見たり各施設の方の話を聞いたりして、自らの課題が解決できるようにした。フィールドワークを中心として追究活動を行った。・地域の方を学校に招き、地域の方の思い、願いを聞き取った。例年、学校としてお願いしている方なので、学校側の子どもたちの思いもよく理解してお話だけだ。・「いなむら学習発表会」で保護者に伝えるという目的意識をもたせた。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のおり、感染症対策を徹底したうえで、施設を訪ねたり、地域の人や施設の方の話を聞いたりした。・現地までやや距離があり、自転車を使用して出かけた。引率者を増やし、安全対策を講じた。・人数の少ない学年であるため、一人あたりの校外学習活動費が割高となり、保護者負担が増えた。
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none">・全国的に有名な彦根梨への関心も高く、そのおいしさのひみつが曾根沼干拓地にあることから、追究への関心も高まった。さらに、梨栽培だけでなく、新しくビール工場やハングライダー場、ソーラーパネル等の建設・設置を知り、「なぜだろう、調べてみたい。将来どうなるのだろう。」と学習意欲を高めることができた。このことが、さらに、CM作り、劇のシナリオ作りについて、自分たちの手で完成させて「いなむら学習発表会」で家の人に見てもらいたいという思いにつながった。
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・児童の探究活動とともに担任自身が改めて知ることもあり、地域のよさを再認識したり、地域の人とのつながりをもったりすることができた。・子どもが教材への知的好奇心を高め、さらに、学習のゴールイメージを明確にもつことが、一連の学習意欲を高め、学びを深めるということを実践を通して実感した。
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none">・学校として、6年間を見通して系統的に地域学習を進める。・目標を明確にしたフィールドワークやゲストティーチャーから話を聞く機会を複数回設定し、児童の実感・納得を大切にする。・国語科、社会科等、他教科の学習や行事と関連付けたカリキュラムマネジメントを構築する。